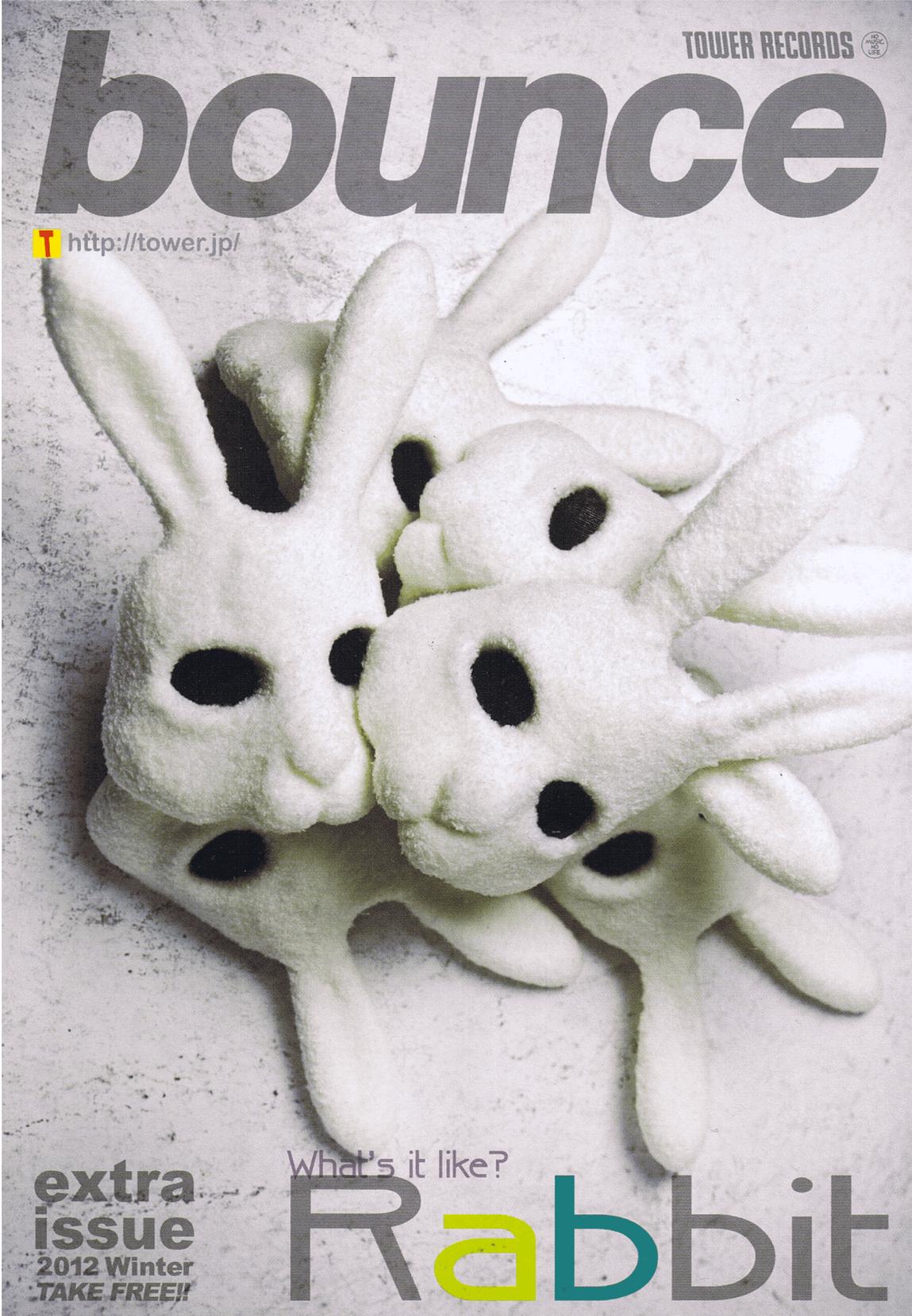


bounce / 2012 Winter 掲載

SASUGA  GUMI



TOWER RECORDS 

# bounce

T <http://tower.jp/>

What's it like?  
**Rabbit**

**extra issue**  
2012 Winter  
TAKE FREE!!

sansan  sasuga

# Rabbit

ウサギ……ですか!?——ヴィジュアルからして混乱させる、謎だらけななかの第一歩。個性もキャリアもさまざまなミュージシャンたちによる集合体、Rabbitとは?

インタビュー・文/ジョー横溝  
Interview & text by Joe Yokomizo



## FAQ——よくある(ありそうな)質問で知るRabbit

**Q** Rabbitのメンバーは誰ですか?

**A** プロデューサーやトラックメイカーとして数多くのメジャー・アーティストを手掛けてきた森俊之(キーボード)、自身のユニット・COLDFEETのほかにもプロデューサー/DJとしても活躍するWatusi(ベース)、THEATRE BROOKの佐藤タイジ(ギター/ヴォーカル)、シンガー・ソングライターの大塚愛(ヴォーカル)、国内外でさまざまなセッションを繰り広げてきた沼澤尚(ドラムス)、80年代の音楽シーンにおいて革新的なサウンドを築き上げてきたロック・バンドであるJAGATARAの南流石(コーラス/モーション)の6人です。なお、今後はメンバーの増殖もある予定です。

**Q** 作品はどのように制作されているのですか?

**A** 12月12日にデビュー・アルバム『裸人』(らびと)がリリースされます。制作に関しては、アレンジのすべてをRabbitで行っています。作詞と作曲は楽曲によってそれぞれで、作詞に大塚愛、南流石、佐藤タイジ、作曲には大塚愛、森俊之、佐藤タイジ、WatusiのパートナーであるCOLDFEETのLori Fineの名がクレジットされています。収録曲のなかには、南が作詞し、佐藤が作曲したものを大塚が歌う、もしくは大塚が作曲したものを佐藤が歌うといったものもあり、大塚に関して言えば、1枚のアルバムで他者の楽曲を何曲も歌うことは初の試みだったりします。

**Q** どのような経緯で集まったメンバーなのですか?

**A** 発起人はJAGATARAの南流石で、メンバーを探すときに、彼女は3つの条件を決めたそうです。ひとつは「セルフ・プロデュース能力に相当長けている人」、2つめは「経験値、スキルともに最高峰レベルであること」、3つめは「兎に角、優しい人」。これらの条件をすべて満たし、現在のメンバーが集まったのが2011年。その年の干支が卯年だったことから、バンドの名前を「Rabbit」としました。

**Q** なぜメンバーの顔を出さないのですか?

**A** メンバー全員が名の知れたトップ・ミュージシャンということもあり、顔を出せば、その華やかな経歴が先入観になってしまうからです。Rabbitは一度限りの企画バンドとして結成されたものではありませんので、ネームの大きさをインパクトを与えるのではなく、あくまでも作品をじっくり味わってもらおうための考えとして、最初から顔を出さないようにしています。デビュー後は、ライブはもちろん、さまざまな場面で顔を出していきます。

**Q** どういったコンセプトを持つバンドなのですか?

**A** Rabbitはバンドであって、バンドではありません。正確には、多種多様な才能に富んだメンバーが音楽を軸に活動する「コングロマリット」です。コングロマリットとは「相互に関連のない異業種部門の企業を次々と買収・合併し、多角的経営を営む巨大企業」という意味を持つ言葉です。そのような意図で集まったメンバーによるRabbitですが、現時点でのメンバー構成やサウンド・コンセプトに関しては「ひとつの形」であり、あくまで「No Border」です。

**Q** ライブはやらないのでしょうか?

**A** 12月28日～31日に千葉・幕張メッセ国際展示場で開催される「COUNTDOWN JAPAN 12/13」への出演が決定しています(出演は30日)。さらに全国ツアー「LIVE TOUR 裸 BEAT 2013」の日程も決定しており、2月3日の新潟公演を皮切りに、名古屋、静岡、仙台、福岡、広島、大阪、東京の8か所8公演が組まれています。メンバー自身もどのような展開になるのかまったく予想できないほど、スリリングなステージになるはずですよ。



ミュージック・ビデオ「Nikki」より

**ひとつの形であって、最終目的ではない**

去る11月30日、ニュース配信サイトなどでその存在が報じられていたRabbitが、とうとうこの世にピョコリと姿を現した。場所は都内某所、この発表記者会見の様子は動画配信もされていたので、その様子を見た方も多いと思う。会場に姿を見せたのは、名うてのミュージシャン6人。そのメンバーとは、JAGATARAの南流石を中心に、森俊之、Watusi、佐藤タイジ、沼澤尚、そして、大塚愛。

Rabbitは、バンドでありながら、〈コングロマリット〉だという。コングロマリットとは、相互に関係性のなかったものたちが合わさり、多角的に活動を営む集合体／複合体のこと。つまり、バンドはひとつの形であって、最終目的ではない。バンドを起点にどんどん仲間を増やし、ジャンルを越えてメンバーを増殖していく可能性もあるというものだ。そんなRabbitの初期設定の根底には、80年代に世界中で話題となったUSAフォー・アフリカの「We Are The World」、その進化型をめざしたいという想いがある。あの時、世界は横に手を繋いでひとつになるようにした。Rabbitは横だけでなく縦にも人を繋ぐ。縦横無尽にさまざまな人々が数珠繋ぎになることによって、ジャンルも世代も突破していこうというわけだ。「上にも下にも手を差し出していろいろなものを引っ張り上げる。あるいはいろいろなものに引っ張られる」(南流石)——この行為を〈コングロマリット〉と呼ぶそうだ。

コングロマリットを実践すべく、レコーディングもメンバー全員が顔を突き合わせての

ものとなった。これだけのミュージシャンが顔を揃えているだけに、いや、そうではなくても、楽器ごとのレコーディングがいやや常。ベースとドラムのリズムを録り、そこにギターとキーボードを乗せ、最後にヴォーカルを入れる。いまはそれが普通のパターン。だが、



Rabbitのデビュー・アルバム「裸人」(cutting edge)。こちらはCD+DVD仕様

Rabbitはメンバー6人でのレコーディングを基本とした。その理由は、デビュー・アルバム「裸人」から伝わってくる。サウンド的には生音と電子音、生のリズムとプログラミング、オルタナティブでもありメインストリームに響くものでもある自由な発想。大塚が書いた曲を佐藤が歌ったり、佐藤

が書いた曲を大塚が歌ったりと、メンバーのユーティリティー・プレイヤー的な活躍も魅力的だ。「泡ガール」という曲では、ファンキーなギターのカットイングが印象的なダンス・ポップを聴かせたり、「Nikki」では佐藤がブルーなプレイを聴かせながら大塚とヴォーカルの掛け合いをしたり、「ローリンアースストーン〜地球を転がせ〜」では、いまを生きる人々を鼓舞せんとする言葉を壮大なスケールのスロウ・バラードに乗せて歌い上げてみたりなど、ヴァリエーションに富んだ楽曲たちは、どれも宛に角、優しい。それはきっと、個性豊かな、というよりバラバラな6人が、顔を突き合わせて音楽を奏でたからなのだろう。

バラバラな6人だったゆえに、結成から2週間ほどで意見がぶつかり合い、早くも解

散の危機を迎えたという裏話もあったと聞いている。しかし、結果的にはその場でのカオスや摩擦がこの集合体らしく楽かったという。今後、〈コングロマリット〉が進めば、さらに大きなカオスや摩擦が生まれることは容易に想像できるが、Rabbitはそこをも越えて行くであろう強さも早々に身に付けたというわけだ。生物学的にもウサギは繁殖能力が高い生き物。つまり性欲＝生欲が強い。この〈生欲〉によって共同体はますます大きく、強くなっていく。個と個が寄りかかり合うのではなく、高みに向かって信頼し合い、競い合う。その相手を、Rabbitでは〈仲間〉と呼ぶ。

**優しさを生むグルーブ**

個への信頼は、6人の間だけのことではない。活動に伴って接するすべてのスタッフにも、その原則を貫いている。例えば、ミュージック・ビデオにおいてもそう。今回、Rabbitの映像監督を務めているのは、Superfly、ゆず、BOOM BOOM SATELLITES、9mm Parabellum Bulletなど幅広いアーティストの作品を手掛けてきた若手映像作家・田辺秀伸。現在、「Nikki」のミュージック・ビデオと映像作品「裸人」の2本が公開されているが、これらのクリエイションは、Rabbitから田辺への〈どの曲で作りたい?〉というひと言から始まっているのがユニークだ。通常、ミュージック・ビデオというのはシングルでリリースされる曲、またはアーティストやレーベルが推したいと思う曲で作るものだが、Rabbitの場合はアルバムを全



Rabbitのデビュー・アルバム「裸人」(cutting edge)。こちらはCDオンリーの仕様

**Rabbitからキャプチャーできる音楽あれこれを(あくまでもその一部分ですが)紹介**

文/久保田泰平、ジョー横溝

**ティン・パン・アレー キャラメル・ママクラウン (1975)**

セッション・バンドとしても70年代のポピュラー音楽シーンに数多くの名演を残した〈集合体〉には、東西から才能豊かなミュージシャンが参画。やがてYMOなどに派生するが、Rabbitの場合、どんな水脈を作っていくのだろう。 \*久保田

**東京事変 東京コレクション EMI Music Japan (2011)**

キャラの強いソロ・シンガーを圧倒的な演奏力で呑み込んで〈一部〉にしちゃってるバンドがすごいのか、はたまたバンドのグルーブを呑み込んで、まんまと自身の新しい個性を光らせちゃってるシンガーがすごいのか……。 \*久保田

**泣き知らズ SOMETHING DIFFERENT 地底レコード (1994)**

不破大輔を中心とした巨大音楽集団。多ジャンルで活躍するアーティストたちが衝突し合うことで生まれるカオスな世界観こそRabbitとは別次元だが、哲学、さらにはこの初期ライブ盤における迫り出しっぷりには通じるものが。 \*横溝

**Perfume JPN 徳間ジャパン (2011)**

彼女たちの音楽を聴いたときに得られる浮遊感、ドキドキ感が、Rabbitの音楽にもある。結成メンバーの名前にグループ名命名へと繋がる共通項があったことも、即年に集まったRabbitとどこか縁を感じ……というのは読みすぎ!? \*横溝

**pupa dreaming pupa EMI Music Japan (2010)**

高橋幸宏、原田知世、高野寛、高田漣、堀江博久、権堂知彦といった多様なキャリアを持つメンバーによって奏でられる、歌と生楽器と打ち込みの温かなフュージョン。人工と天然が正しく共存しているカタチはRabbitも同様だ。 \*横溝

**MEG WEAR I AM スターチャイルド (2012)**

Rabbitのメイン・ヴォーカルとして、持ち前の個性+αを放っている大塚さんですが、アーティストとしてそのポテンシャルをより引き出すには、男性たちに愛されることはひとつの条件。そんなわけで、こちらも好サンプル。 \*久保田



映像作品「裸人」より

部聴かせたうえで、くあなたが作りたい曲で作ってください」と委ねたわけだ。そして、田辺が作ったのが、南の作詞、佐藤の作曲による“Nikki”。さらに彼は、Rabbitからのユニークなオーダーにユニークな形でお返しとばかりに、「裸人」というタイトルの映像作品も手掛けるが、同名の楽曲はアルバムの中ではなく、このタイトルはズバリ、アルバムのタイトルだ。田辺はアルバム「裸人」の全曲をフラッシュバックさせ、まさに数珠繋ぎになった1本の映像を作り上げた。ずいぶん大変な作業に進んで挑んだわけだが、作品を完成させた田辺のひと言がイカしている。

「こういう仕事、みんなやりたいって言うと思う」——この信頼感がRabbitの核でもある。楽曲制作以外のポジションに就いている人たちには余計な口出しをせず、作業を全面的に任せる。そこに必要とされるのは、ひとつの大きな目標に向かってみんなで楽しむということだ。では、そのRabbitの目標とは何なのか？ それは、人を優しくすることだ。Rabbitというコングロマリットに参加する者は、それぞれ個々での活動も持っている。個々で追求すべきものは

個々で果たしていくものとして、Rabbitに関わっている瞬間は、ただ人として優しくなりたい、そんな想いがある。そこで生まれるのは信頼。人数も増えていけば、メンバー同士はウマが合わないこともあるのかもしれない。それでも信頼し合える仲間、それは絆とか友情とかといった言葉で繋がっているものとも違う。信頼、つまりグルーヴ。このRabbitの放つグルーヴは、過不足なく、

温かく、優しく、気持ちいい。

Rabbitは、すでに新たなコングロマリットを始めている。11月30日に行われた発表記者会見ですでに2名のモーション担当の増殖が発表された。さて、次はどんなメンバーを増殖させるのか？ いやいや、もしかして増殖ではなく、減少するのかもしれない。ピョンと飛び出してきたRabbitがどんなふうに跳ねていくのか、注目し続けたい。 ■



心躍る、裸beat! 地球を転がすMUSIC! 兎に角、体感。



【CD+DVD】  
CTCR-14783/B ¥3,500 (tax in)



【CD】  
CTCR-14784 ¥2,800 (tax in)

DEBUT ALBUM  
2012.12.12 ON SALE

裸人

[CD] 1. ドーナツスポット 2. RUNWAY 3. 泡ガール 4. Nikki 5. UNLOVE 6. 半熟たまご 7. MOONLIGHT 8. 時の彼方 9. HoloHolo 10. ローリン アース ストーン ~地球を転がせ~ [DVD] 「Nikki」-Music Video- | 映像作品「裸人」

cutting edge

~予定調和をぶち壊せ! 何モノにも囚われないファースト・ツアーを体感せよ!~

NIIGATA 2月3日(日) NIIGATA LOTS NAGOYA 2月10日(日) CLUB DIAMOND HALL  
SHIZUOKA 2月16日(土) SOUND SHOWER ark SENDAI 2月23日(土) Rensa FUKUOKA 3月2日(土) DRUM LOGOS  
HIROSHIMA 3月16日(土) BLUE LIVE HIROSHIMA OSAKA 3月17日(日) なんばHatch TOKYO 3月19日(火) SHIBUYA-AX

Rabbit  
Live Tour Beat 2013



特別先行先着予約実施!!

【受付期間】

2012年12月1日(土) 10:00~12月26日(水) 23:59

※規定枚数に到達次第、終了となりますので、お早めにお申し込みください。

【入金期間】 予約日を含め3日間

【入金締日】 2012年12月27日(木) 23:59

受付URL <http://www.avexlive.jp/rabbit-bounce>



conglorabbit.com